

1985年11月現在、ヤタベを舞台にした国産最高速チャレンジでは、トラスト・チューンのソアラ2800GTツインターボがマークした309.27km/hがレコードだ。2番手としては、トライアルの手になるS130型Zの307.95km/h、そしてRE雨宮RX-7の307.42km/hだ。トップ3は300km/hオーバーなのだ。思えば、1978年にアメリカのレーシ

ングビートがボンネビルで旧RX-7が296.66km/hをマークしたニュースにビックリした記憶があるが、現在では国産マシン群は皆300km/hオーバーをマーク！日本のチューナーのレベル向上がうかがえる。そして、ベースとなる国産車がノーマルでも過激な車がデビューしたので、来年は、また一段とスピードアップしそうだ。

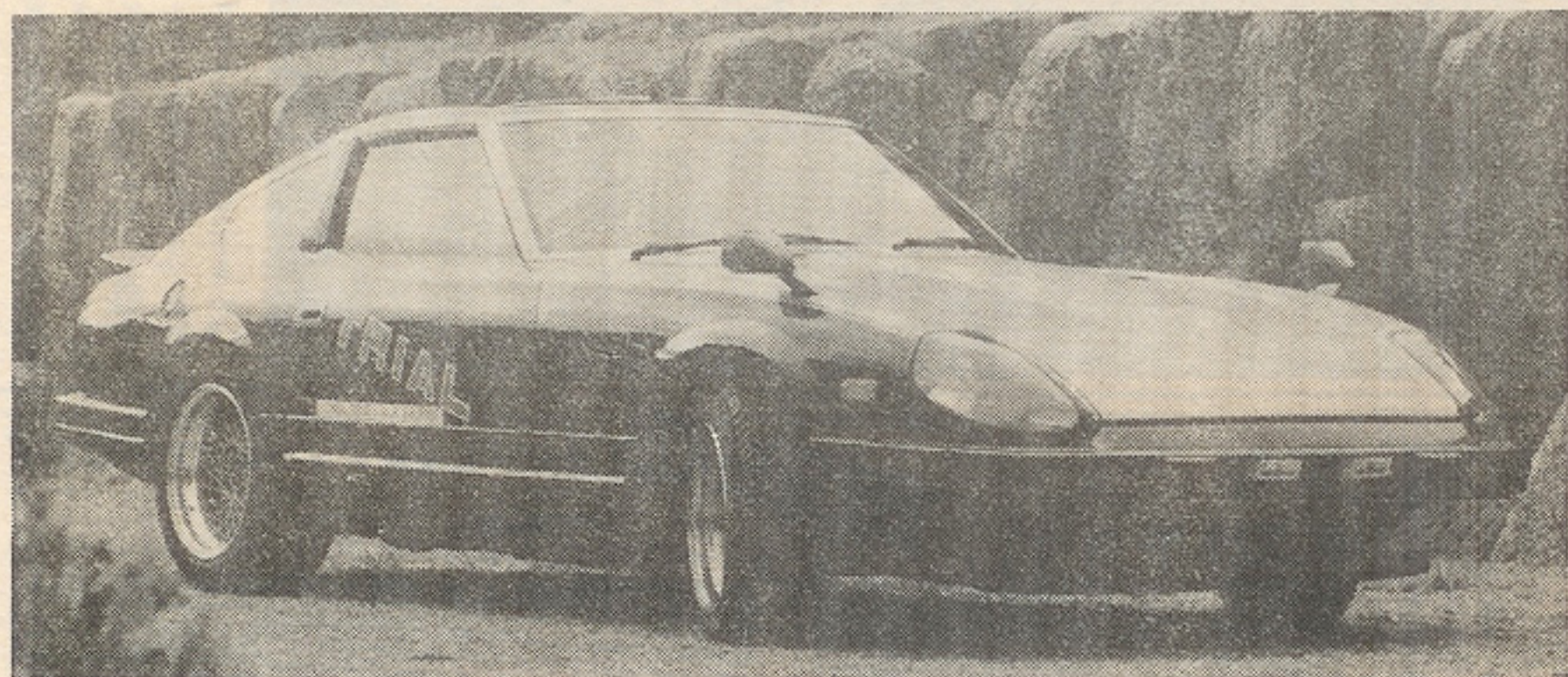
国産最速309.278km/hのレコード樹立！

トラスト・ソアラ2.8GTツインターボ



三菱TD06ツインターボをコンビした5M-G型ツインカム6は585psを発揮する

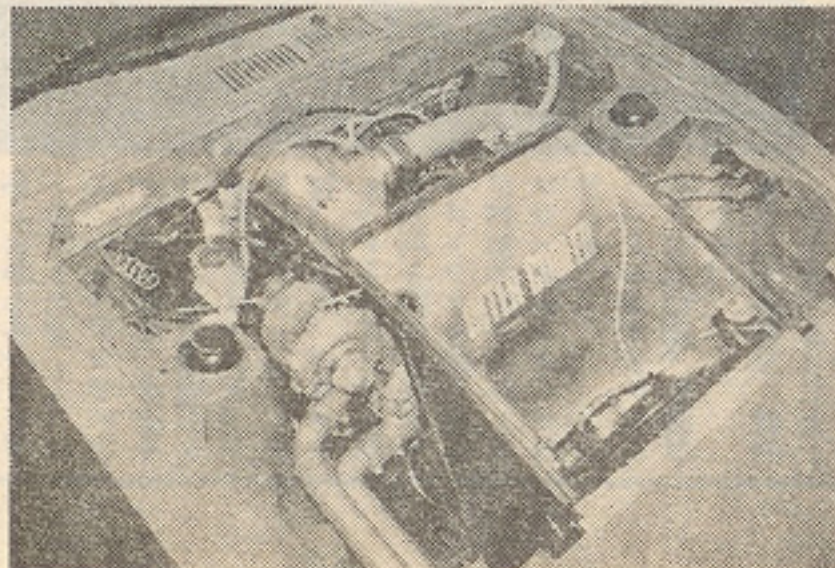
外観は一見ノーマル。だが、フード下にはなんと585ps/7500rpm、54.0kgm/5200rpmと、F1クラスにも匹敵するハイパワーを潜めているとは誰が想像しよう。実際に、この585psのパワーは、ヤタベを舞台にした国産チューンドマシンの最高速トライアルで、実に309.278km/hをマーク！ただ今トップランナー。それについて、街乗りでもイージードライブがOK、というソフト&ワイルドな面を合わせもっている。エンジンは5M-GEUをベースに、三菱TD06ターボチャージャーを2個装着。これは、KKK製に比べ低中速域のピックアップの良さから選んだ。その他、85mm鍛造ピストン、ビッグバルブ、強化バルブスプリング、280度ハイカム、3mm厚メタル製ヘッドガスケット、空冷2層式インタークーラー、オイルクーラー、大容量ウェイストゲート、ステン製42φEXマニホールドを組みこんでいる。足回りについては、トラスト・オリジナルのサス・キットを組み込んでいる。



日本一速いREモンスター

RE雨宮・サバンナRX-7ツインターボ

RE
K
26
型
ター
ビン
を
ツ
イン
コン
ビ
した
13
B
型



REの名チューナー、雨宮勇美氏が作り上げた最高速仕様RX-7ツインターボ。ヤタベで307.49km/hをマーク、最速のREカーだ。300km/hオーバーの秘密は強力な13B型ロータリーにあるのはいうまでもない。13B型REはサイドポートチューンされ、KKK製のK26型ツインターボをコンビ。HKS製レース用インタークーラーを2層加工した大容量タイプをコンビ、パワーは軽く450psをオーバーしている。キャブレションは、ウェーバーの48φ×2に加えて、燃料増量インジェクターを2本装着。最大過給圧は0.9kg/cm²。5000rpmを境に、とにかく目のさめるような鮮烈な加速を示す。生半可なドライバーは注意した方がよい。——この初代RX-7の307km/hマークは、新型RX-7にバトンタッチされた。目標は、やはり315km/hだ！